

西地区ってこんなところ

本紙では、市内を9地区に分けて、地域の情報を年3回紹介しています。本号では、「西地区」を紹介します。



五十嵐浜のタコ

明治時代に始まったといわれる五十嵐浜のタコ漁。12月から3月ころにかけて、水揚げのピークを迎えます。早朝水揚げされたタコは、大きななかまでゆでられ、朝のうちにおいしい“ゆでダコ”へと早変わり。漁港近くの沿道でつるされて販売される様子は、季節限定のおなじみの光景です。

川の交差 (西川と新川)

川どうしが立体交差している珍しい光景が見られます。橋の上を流れているのが西川です。低湿地帯だった西地区の水を、日本海へ排水するために開削された新川ですが、開削当時は、西川の下に木製の底樋を埋めて、川を立体交差させていました。その後改修され、昭和30年には現在のような「西川水路橋」となりました。

賽の神

正月に行われる伝統行事「賽の神」。小瀬小学校と笠木小学校では、保護者の人たちの協力を得て毎年開催しています。竹や稲わらを使って高さ約6mの大きな賽の神を作り、それを焼いて、五穀豊穡や無病息災、学業成就などを祈願します。

昭和30年代の佐潟 (写真：赤塚小学校所蔵)



佐潟の東側 (県道新潟寺泊線沿い) にあった昔の舟付き場。右端に見える石積み場所には現在、駐在所 (右側の建物) が建っている



周辺の田んぼに水が流れて潟の水量が減ると、佐潟でも稲作が行われた。現在、この場所は埋め立てられ、広場や散策路などが整備されている

現在の様子

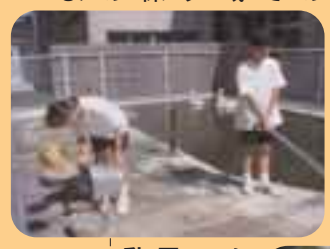


ラムサール条約登録湿地

佐潟

都市部の近くにありながら、豊かな自然生態系を残す湖沼。佐潟。オニバスやミズアオイといった貴重な水生植物などを見ることが出来るほか、冬には、白鳥をはじめ、たくさんの水鳥が越冬地として訪れます。

また、かんがい用の水源、レンコンやハスの花などの採取、コイやフナ釣など、佐潟は古くから人々の生活に欠かすことのできない存在です。地域の人たちは、周辺のクリーン活動や野鳥の保護など、積極的に潟の保全に取り組んでいます。



白鳥の世話をする赤塚中学校の白鳥委員会の生徒(上)、同校では、佐潟のクリーン活動も熱心に行っている(右)

